

平成26年度第3回小牧市男女共同参画審議会議事要旨

1 日 時：平成26年8月29日（金）

午前10時～

2 場 所：小牧市まなび創造館 研修室2

3 出席者

〔出席者〕 委 員：代田義勝、松田照美、宮崎康弘、林義人、大野順子
牧とよ子、松井幸子、林千代子、岩下道子、市川紀六

事務局：舟橋教育部次長、羽飼館長、坪井係長
(株)サーベイリサーチセンター

〔欠席者〕

なし

〔傍聴者〕

0名

4 議 題

(1) 市民意識調査の集計について

(2) 小牧市男女共同参画基本計画の改訂について

5 審議会概要

開会・あいさつ

〔羽飼館長〕

本日はお忙しい中男女共同参画審議会にご出席くださりましてありがとうございます。

ただ今より、平成26年度第3回小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。

本日は欠席者、傍聴の申し出ともありません。本日の会議は公開とし、情報公開コーナーにて公開させていただきます。

それでは、はじめに代田会長にご挨拶をお願いいたします。

〔代田会長〕

おはようございます。

前回の審議会でもお話しましたが、政府が掲げる2020年までに女性の管理職比率を30%まで引き上げるという目標について、各企業が設置目標を出してきています。

例えばトヨタ自動車では、10年前女性の管理職は14名しかいませんでしたが、今年101名まで増加したそうです。これを2020年までに3倍、2030年までには5倍とする目標を打ち出しています。

また、日産自動車でも2017年度までに女性の管理職を10%にするという目標を打ち出しています。

このように比率を掲げる企業と数値を掲げる企業、両方がありますが、いずれに

してもこのように数をはっきり打ち出すことは、今後、女性管理職増加の勢いを大きくしていくことにつながっていくと感じます。

このような流れの中で、小牧市のような自治体においてもより一層女性の登用について意識をしていかなければならないのではと感じます。

それでは、本日の議題についてです。議題は大きく2つあります。一つは意識調査の集計結果について、もう一つは男女共同参画基本計画の改訂についてです。この議題について、皆さんのご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

〔羽飼館長〕

ありがとうございました。

今回の審議会の議題は、前回7月10日の第2回男女共同参画審議会において審議いただいたことの続きとなる部分もあるかと思えます。皆様の忌憚のないご意見をお願いいたします。

それでは、議題に移ります。男女共同参画審議会規則第2条の規定により、代田会長に取り回しをお願いいたします。

〔代田会長〕

はい。では議題（1）市民意識調査の集計についてです。

この件について、事務局から説明をお願いします。

〔羽飼館長〕

はい、この件につきましては、資料2をご覧ください。この資料は中間報告の一部としてご活用いただきたいと思えます。

意識調査の回収率は、一般市民向けが3,000名にお送りした中で1,081名の回答があり、約36%となりました。事業所は、300事業所にお送りした中で65事業所から回答があり、約21%の回収率です。小中学生向けのものについては、まなび創造館職員が直接学校まで持参し、直接回収を行っております。このことから、回収率はほぼ100%と見て良いかと思えます。小学生向けは702名、中学生向けは523名から回答をいただきました。

少し詳しい内容につきましては、前回と同様、サーベイリサーチセンターより説明させていただきたいと思えます。

〔サーベイリサーチセンター〕

はい。では、市民意識調査の集計結果につきまして、簡単ですが説明をさせていただきます。

皆様のお手元には、事前にお配りした資料2と、本日配布させていただきましたアンケートの報告書3種類があるかと思えます。

本日配布の報告書は、事務局での精査がまだ完了しておりませんので、あくまで素案としてご覧いただければと思えます。

それぞれのアンケート調査の概要については、各報告書の3ページに記載してあります。

1件ずつ説明しますと大変時間がかかってしまいますので、後ほどまたご確認いただければと思います。

本日説明させていただきたいのは、資料2についてです。こちらは、計画の分野として考えられるテーマ毎にアンケート調査や市の事業実績から抜粋して掲載したものです。それぞれの分野についてこれだけが課題というわけではなく、特に今回の審議会において委員の皆様へに審議していただきたいものと認識いただければと思います。

まず1ページ目「政策・方針決定の場における男女共同参画の推進」についてです。事業所にアンケート調査を行った結果、体制・登用等において男女共同参画に関する取り組みを行っている事業所は1割未満という結果になりました。ただし、資格取得や評価等、業務的な部分で取り組んでいる事業所は2割強ということです。この分野での小牧市での取り組みは、人材育成と発掘の取り組みとして、生涯学習等の事業を行っています。

次に課題Ⅰ-2、地域活動や団体・グループ活動における男女共同参画の促進という観点で地域活動等への参加経験を聞いたところ、「町内会や自治会」への参加は非常に多く68.6%という結果になりましたが、「老人会・青年会等」の活動が50%、「ボランティア」、「まちづくり」、「防災等」はそれぞれ30%前後という形になりました。この活動に参加したことがない理由としては、「仕事が忙しい」という理由がやはり多いものとなりました。女性に特化して見てみますと、「家事・育児・介護等で忙しい」という理由が男性よりも大幅に高くなっています。しかし、こういった時間が足りないといった理由以外でも、「一人では参加しにくい」、「責任ある立場を任されたくない」といった、参加できる状態ではあるものの、意識の点から参加していないという方も多くいることが明らかになりました。

課題Ⅱ-1、働く場における男女平等の促進についてです。こちらの最初に記載したデータは「女性の年齢別労働力率」です。日本では、育児を行う年代において女性の労働率が低くなる傾向にあります。この元になったデータは、愛知県及び小牧市の平成22年度国勢調査と平成26年版男女共同参画白書です。こちらを見ると、いわゆるM字カーブが浅くなってきていることが読み取れます。また、職場や就職活動で男性が優遇されているか女性が優遇されているかという問いにおいては、「どちらかという」とも含めると男性が優遇されているという回答が6割を超えています。この問いにおいて、女性の方が男性よりも「男性が優遇されている」と答える割合が高くなっています。ですが、男性の目から見ると男性の方が優遇されていると答えた方も6割以上です。

課題Ⅱ-2、ワーク・ライフ・バランスの実現に関する調査です。上段の枠内の調査が今回の市民意識調査の結果、下段の結果は平成24年度内閣府の調査「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果です。この結果を見ますと、理想として「仕事を優先したい」と考えている方は女性0.7%、男性2.6%と少ないのに対し、現実には「仕事だけ優先している」と答えたのは女性8.4%、男性21.3%と理想と比べてかなり多くなっています。さらに、理想で「家庭生活を優先したい」という女性は15.1%であるのに対し、現実には「家庭生活を優先している」のは28.0%です。ここからは、家庭生活を優先せざるをえない女性の現状が見えるかと思います。また、理想で一番多いのは「仕事と家庭生活と地域・個人の生活全てを大切にしたい」という答えですが、現実には理想と比べてかなり少ない割合となっています。

この調査について、次のページでの事業所の調査ですが、ワーク・ライフ・バランスへ

の取り組みを聞いたところ、ワーク・ライフ・バランスについてよくわからない事業所が3割とかなり多い割合になっています。

続きまして課題Ⅲ－1、男女共同参画意識の普及・啓発についてです。これから市が力を入れていくべき点についての調査では、「保育・子育てサービスや施設を充実させる」、「介護サービスや福祉関連の施設を充実させる」の回答割合が多くなっています。この結果からは、意識の面からよりは、施設・サービス等のハード的な面に力を入れるべきとの意見が読み取れるかと思えます。これについては、特に女性において回答した割合が高くなっています。男性においては、女性と同じくサービスや施設の充実の割合も高いですが、「男女共同参画に関しての広報を充実させる」、「学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」と回答した割合も高くなっています。

下段、中学生向けの意識調査で男女が平等になっているかの問いですが、家庭では平等と答えている方は60%、学校生活で平等と答えている方が50%、地域社会全体で平等と答えている方は43%となっています。特に見るべき回答としては、学校生活で「女性のほうが優遇されている」との回答が約30%にのぼり、逆に学校生活で「男性のほうが優遇されている」との答えは2.7%となっています。

次に課題Ⅲ－2、男性にとっての男女共同参画に何が必要か、の問いに移ります。一番比率として高かった回答は、「職場に置いて育児・介護休暇などを取りやすい雰囲気を作る」です。これは男性・女性に関わらず高い割合で選択されていました。女性と男性で回答の割合差が大きかったものは「家庭で子どもに対し、男女の区別なく家事、育児、介護に携わることができるようしつけ、育て方を行う」という回答です。女性では45.4%が選択したのに対し、男性では31.4%と約15ポイントの開きがあります。また、「夫婦間、家族間でコミュニケーションをはかる」においても、男性より女性の方が選択した割合が高くなっています。

続いて課題Ⅲ－3、子どもにとっての男女共同参画についてです。まず、一般市民の方に学校教育や保育の場において男女平等かどうかを聞きますと、57.8%が「平等」と回答されています。学校教育の場からの啓発活動として、小牧市では子ども用の副読本「はばたけ未来へ」を小学校5年生に向けて配布しています。

課題Ⅳ－2、人権についての正しい認識と人権侵害への予備・対策については、女性の人権が尊重されていないと感じる点と男性の人権が尊重されていないと感じる点についてそれぞれ聞いてみたところ、女性については「仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い」が50%以上で特に高くなっています。続いて「痴漢行為やストーカー行為」「売春・買春・人身売買・性犯罪」が高くなっています。男性については仕事内容については特に高くありませんが、「男性というだけで肉体労働・力を使う仕事を任せられる風潮」が40%と高くなっています。次に「痴漢行為や痴漢冤罪」が続きます。

DVについての質問では、DVを受けてどこかに相談した方の割合を聞いていますが、どこかに相談したと答えた女性は24.5%、男性は8.4%と、どちらの場合でも相談しなかった割合と比べてかなり低くなっています。相談しなかった理由としては、「自分にも悪い点があると思ったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」がそれぞれ50%以上で、できる限り自分で解決しようとしてしまう現状が見えるかと思えます。

最後にⅣ－3、生涯を通じた健康づくりのための支援で何が必要かと聞いたところ、男性女性ともに「女性や男性の健康に関する情報の提供」の割合が高くなっています。相談

窓口よりもまず情報の提供が必要と感じている方が多いと考えられます。

以上の点が、それぞれの課題に応じてアンケート結果等から抜粋したものになります。詳細な調査結果については、報告書をご覧ください。

〔代田会長〕

ありがとうございました。今回の調査結果を元に今後10年間の行動計画を策定していきます。詳細な内容は報告書をご確認いただきたいと思います。今回は資料2に基づいて審議していきたいと思えます。

〔市川委員〕

事業所に関する調査について、標本数300に対し、有効回答数65という結果ですが、報告書3ページに「事業所調査については、標本数が少ないため、集計結果は参考程度とします」という一文があります。これはどういう意味ですか。

〔サーベイリサーチセンター〕

「参考程度」とは、今回の調査結果を小牧市全体の事業所で見たパーセンテージに置き換えることができるかとなると、統計的な意味では難しい、という意味です。

ただし、今回回収しました調査結果につきましては、貴重な資料になりますので、もちろんこれを踏まえて検討していく必要があるかと思えます。

〔代田会長〕

この結果は使えないというのではなく、参考になる、という認識で良いですか。

〔市川委員〕

私は長くメーカーに勤めていましたが、メーカーの中でも部門によって女性の活躍の状況が異なっていました。製造現場では、女性はアシスタントのような立場である場合が多かった反面、サービスやマーケティングの部門では女性が男性と同等以上に活躍していました。この65社が、こういった背景の会社なのかを分析すれば、もっと参考になるのではありませんか。

〔サーベイリサーチセンター〕

業態別にクロス集計をかけるということでしょうか。

〔市川委員〕

業態と、どのような部門を念頭に置いて回答したかが分かれば良いですね。

〔羽飼館長〕

仰ることは分かりますが、それを行うと、あまりに内容が細分化されすぎてしまうように感じます。

〔代田会長〕

5 ページを見ますと、従業員規模が10人未満という事業所が60%となっています。10人から49人までの事業所が18.5%で、この二つを併せるとほぼ8割の割合です。ここを鑑みると、大きな組織の中でいくつも部門がわかれているといった企業からの回答ではないように思います。

〔宮崎委員〕

日本全体で見ても、大企業というのは当然数が少ないものです。ですから、この資料についてはこのままクロス集計してしまって良いと感じます。

〔サーベイリサーチセンター〕

サンプル数は少なくなりますが、事業所規模や業態別でどのような形態の事業所がどのような回答をしているか、わかるような報告書を作成するよう努力したいと思います。

〔代田会長〕

その他、何かありますか。

〔宮崎委員〕

事業所に対するポジティブ・アクションの取り組みについての調査ですが、私の勤める会社では、「女性だから」として特に力を入れていることはなく、男性も女性も平等に機会を提供しています。弊社のような企業の場合、こういった質問には「特に取り組んでいない」という答えにならざるをえず、そこに少し違和感があります。質問の意図がわかりにくいかもしれません。

〔代田会長〕

なるほど。考慮に入れていきましょうか。

私が面白いと感じたのは、資料2の課題Ⅱ-2、ワーク・ライフ・バランスについての質問で、理想の優先度として「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」全てを大切にしたい」と答えた方が、全国と比べて大変多いところです。割合で見ると、全国の倍以上の方が3つ全てを大切にしたいと答えています。ここは大変特徴的です。

〔市川委員〕

確かに、他の質問でも男性の「仕事を優先したい」という回答などは、全国と比べてかなり低いですね。

〔代田会長〕

課題Ⅰ-2ですが、報告書においてnが1,081と男性・女性が合計した形で報告されています。これを女性・男性に分けた方が、より特徴的な比率になるのではないかと考えます。

〔林委員〕

一般向けの回答者の年代を見ると、45%程度が60代以上ですね。課題I-2の「学校のPTA活動」に参加したことがない方が43%というのも、回答者の年代で見ると妥当な割合だと思います。

〔サーベイリサーチセンター〕

一般向け報告書の61ページ以降をご覧くださいますと、参加したことがある活動等の詳細な報告が記載してあります。

〔市川委員〕

年代別等のクロス分析は済んでいるということですか。

〔サーベイリサーチセンター〕

一般向けにつきましては、そのとおりです。

〔市川委員〕

事業所向けのクロス集計はまだということですか。

〔サーベイリサーチセンター〕

はい。

〔代田会長〕

今回の報告書はかなりボリュームのあるものですから、委員の皆さんには一度報告書を持ち帰って、ゆっくり目を通していただく方が良いかもしれませんね。

〔松田委員〕

確かにボリュームが多すぎて、すぐに意見を出すのは難しいです。

今気がつきましたが、一般向け報告書の5ページ1-1では、文面と図表で男性と女性が入れ替わっていませんか。

〔サーベイリサーチセンター〕

申し訳ありません。確かにそのとおりです。修正いたします。グラフの数値が正しい報告です。

〔代田会長〕

それでは、次回の審議会までに資料を読み込んでいただき、それぞれ委員の皆さんが重要と思う部分を指摘していただければと思います。

続きまして、議題(2)小牧市男女共同参画基本計画の改訂についてに移りたいと思います。事務局から説明等がありますか。

〔羽飼館長〕

はい。お手元に資料3と資料4を配布させていただきました。資料3は小牧市職員の女性登用状況について、毎年報告させていただいているものの平成26年度版です。こちらにつきましては、お目通しいただければと思います。

男女共同参画基本計画の改訂につきましては、資料4に計画の体系の新案を提示させていただきました。これは新しい基本計画の核となる部分です。この点につきましては、市川委員が考えられた計画体系マップを、市川委員より事前にいただいております。本日配布の資料の中に入っております。

資料1は、前回の審議会で配布させていただきましたものとほぼ同様ですが、1ページ目の①「女性委員の登用率の上昇」部分に具体的な実績の人数が判明しましたので、そちらを追加してあります。

また、前回審議会で質問のありました小牧市の待機児童の人数ですが、現在49名とのことです。

〔代田会長〕

わかりました。

資料1は男女共同参画の推進状況についてですが、小牧市の委員会における女性委員の登用状況の調査はどうなっていますか。

〔坪井係長〕

それにつきましては、現在各課に照会中です。

〔代田会長〕

そうですか。では次回以降に報告をお願いします。

資料3の女性職員の登用状況ですが、これは他の市町と比較するとどのようなのでしょうか。女性の部長職が0名、次長職が1名となると、他の市町よりも低い数値なのではないかと感じます。

〔羽飼館長〕

申し訳ありません。他市町の状況は詳しく把握をしておりませんので、次回、調査の上報告させていただきたいと思っております。

〔代田会長〕

人数の改善というのは難しいかもしれませんが、期待したいですね。

〔舟橋次長〕

職員の中でも私たちの年代になりますと、女子職員自体が少なかったという事情があります。また、結婚や出産を期に仕事を辞める職員が現在よりも多い時代でした。もう少し若い世代になりますとまた事情が異なります。

また、庁内で課長補佐という職を減らしていく方向で動いております。このことから、女性の登用としては現在報告の係長級、主査級の数を増やしていくという点

で見ていただければと考えます。

〔代田会長〕

主査級というのは、どのような年齢層が多いのですか。

〔舟橋次長〕

おおよそ30代後半から40代前半あたりです。

〔代田会長〕

そうすると、主査級の女性の割合が45%というのはかなり努力が見られますね。

〔市川委員〕

今年度新規採用職員の男女比率はどれくらいですか。半々程度でしょうか。

〔坪井係長〕

年度によってかなり状況が異なります。男性が多い年度もあれば、女性が多い年度もあります。

〔宮崎委員〕

毎年4月頭に見かける新人職員は、男女が大体半々くらいという印象ですね。

〔市川委員〕

係長級になるのは、入庁後何年くらいですか。

〔舟橋次長〕

年齢で言えば、40歳程度です。

〔市川委員〕

そうすると、今のままでいけば20年後には係長級の職員は男女半々程度になると期待しても良いですか。

〔松田委員〕

簡単にはいかないかもしれませんが、期待したいですね。ですが、主査級の女性職員が45%というのはかなり凄いことだと思います。

〔舟橋次長〕

現在は、管理職に至るまでの経験として、若いうちから平等に研修などで経験を積ませています。このような点は数値には表れてきませんが、女性の登用の一環として考えていただきたいと思います。

〔代田会長〕

それでは、資料3の今後の計画の体系についてですが、これまで議論を重ねてきた結果が現在のものですので、今のところはこのままで良いのではないかと考えます。今後、正式な意識調査の結果が出てきた後、それを反映させていければと思います。

〔市川委員〕

会長の意見に賛成ですが、念のため今回提出した資料の説明をさせていただきたいと思います。

これまでの企業勤めの経験から考えると、目指すもののためにはまず学習が必要であると感じます。また、私の希望としては、企業への働きかけをより強くしてほしいということです。次に、具体的な数値目標を出してほしいということ。今回の基本計画の推進状況を確認してみますと、具体的な目標を出している部分はほとんどありません。結果として評価が曖昧になってしまいます。そして男女共同参画に関しての常識は世代によって変わってきています。この変わってきている常識を擦り合わせていきたいと考えます。これは小牧市というよりは国に対しての要望になるかもしれません。ですが、基本計画策定の際に参考にさせていただきたいと思います。

〔代田会長〕

私も、企業への働きかけが弱いと感じていました。これは今後必須になるでしょう。数値化については難しい部分もあるのですが、具体的な数値があれば比較もしやすくなります。ここもぜひ考えてほしいですね。また、男女共同参画に関して、各部署の協力体制も整えていってほしいと感じます。

それを考えると、今後行動計画の中で具体的に数値等をあげていった方が良いと思います。

今後のスケジュールはどのような形になるでしょうか。

〔坪井係長〕

はい。今後12月にパブリックコメントを予定しております。これに先立ち10月ごろ第4回の審議会を開催させていただき、ここで新プランの素案を提示させていただきたいと考えております。

〔代田会長〕

それでは、今日の議題は以上です。事務局にお返しします。

〔羽飼館長〕

ありがとうございます。これをもちまして平成26年度第3回小牧市男女共同参画審議会を終了いたします。

本日はありがとうございました。